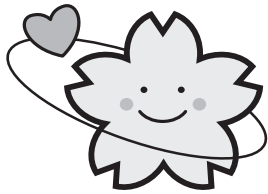


ぱちんこ依存問題相談機関からのメッセージ



さくら通信

57号

さくら通信とは・・・小さなつぼみに過ぎない私たちの活動が、桜前線のように南の島沖縄から日本中に回復支援の輪となって広がり、これらを必要とする人たちに届くことを願って名づけました。

CONTENTS

- P1……年始のごあいさつ
2011年12月相談データ報告
P2-3…特集 RSN オピニオン
トピック&インフォメーション
P4……情報掲示板

2012年もよろしくお願い申し上げます

RSN 代表 西村直之

ニュースレター発刊日の都合でずいぶん遅くなってしまいましたが、新しい年を迎えるにあたり旧年中のご支援への御礼を申し上げます。また、本年も私どもの活動へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は震災と原発事故という未曾有の事態のために、様々なことを考え、普段は見落としがちなことにも目を向ける機会が多くなった1年となりました。電話相談という地道な活動であっても、震災の影響は考えずには過ごせないものでした。とはいえやるべきことは、本来業務を堅実に展開し、これから起こるかもしれない変化に対応できる体制と力をつけていくことと考え、相談の質的向上に取り組んで参りました。また情報の断絶の恐ろしさを知るとともに、情報の力を再認識し、ニュースレターの内容を見直し、できるだけ現場の空気を伝えることができるように、毎月スタッフ一同で頭を悩ませながら誌面を作成してきました。本年も、このニュースレターが、ギャンブル問題の回復支援の道作りに役立つことを願って知恵を絞っていきます。

年が変わったからといって、何か特別のことを始めるようなサプライズ企画はありませんが、メール相談の開設や、より詳細な相談データの解析、ギャンブル関連の情報発信など、通常の相談業務に取り組みながらも、より一層役立つ社会の資源となることができるように努力したいと思っております。

2011年12月の電話相談のデータ報告

2011年12月1日～2011年12月31日 相談件数 95件

2011年4月1日～2011年12月31日 今年度累計 791件 開設からの総件数(2006年4月～)6,303件

| ①相談回数 n=95 | | | ②性別 n=75(初回のみ) | | ③コーラー関係性 n=75(初回のみ) | | |
|------------|-------|------------|----------------|---------|---------------------|---------|-------|
| 初回 | 複数回 | 間違い・無言・問合せ | 男性 | 女性 | 本人 | 家族・友人 | 援助者 |
| 75(79%) | 8(8%) | 12(13%) | 42(56%) | 33(44%) | 56(75%) | 18(24%) | 1(1%) |
| | | | コーラー対象者 | 24(32%) | | | |

④経路 n=75(初回のみ)

| | 本人 | 家族・友人 | 援助者 | 合計 |
|----------|----|-------|-----|----|
| ホール内ポスター | 38 | 5 | 0 | 43 |
| 新聞 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| インターネット | 10 | 4 | 1 | 15 |
| 他の相談機関 | 1 | 2 | 0 | 3 |
| その他 | 4 | 3 | 0 | 7 |
| 不明 | 3 | 2 | 0 | 5 |
| 合計 | 56 | 18 | 1 | 75 |

⑤コーラーの年齢 n=75(初回のみ)

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 本人 | 3 | 9 | 15 | 21 | 6 | 2 | 56 |
| 家族・友人 | 0 | 0 | 2 | 6 | 7 | 3 | 18 |
| 援助者 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 3 | 10 | 17 | 27 | 13 | 5 | 75 |

⑥紹介先

| | 本人 | 家族・友人 | 援助者 | 合計 |
|---------------|----|-------|-----|----|
| 精神保健福祉センター | 3 | 6 | 0 | 9 |
| 保健所 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| ワンダーポート | 0 | 1 | 0 | 1 |
| ギャンブラーズ・アノニマス | 16 | 0 | 1 | 17 |
| ギャマノン | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 医療機関(主治医戻し含む) | 10 | 2 | 0 | 12 |
| その他 | 3 | 6 | 0 | 9 |
| 紹介先無し | 24 | 7 | 0 | 31 |
| 合計 | 56 | 24 | 1 | 81 |

②性別…先月と比較して、対象者女性が増加しました。今年度では最も多い相談件数となりました(今月24件/先月19件)。NHKの特番の影響かもしれません。

④経路…先月と比較してポスター経由の本人からの相談が減少しました。件数は昨年同期と変化ありませんでした(今月38件/先月47件・昨年同月/34件)。

⑤コーラーの年齢…本人からの相談では、40代からの相談が増加していました(今月21件/先月11件)。

特集: オピニオン

社会の変動が相談者に与える影響は？

パチンコ依存問題から社会の動向を見る

RSNの電話相談の広報は、パチンコホールに貼ってもらっているポスターを主としている。そのためパチンコユーザーの動向が、素早く電話相談の現場に反映される特徴を持っている。パチンコユーザーは、どのような社会的な変動の影響を受け、そのことが相談データとしてどのように現れてくるのか、また相談者により良い支援を提供するために社会に必要な働きかけとして何ができるのか、今回の特集はRSNと社会動向の関係に焦点を当てた。

貸金業法改正

問題を持つ家族からの相談が減少

平成22年6月に施行された貸金業法の改正は、この2年間でRSNの電話相談の動向に明らかな変化を及ぼした要素の一つである。

自殺やホームレス問題と結びつきが深い「多重債務問題」を防止するための法改正によって、グレーゾーン金利の廃止、貸出金額の制限(年収3分の1以上の新規借入の規制)などが施行され、いわゆるサラ金からの借入が難しくなった。

法改正の影響は、借金を繰り返しながら遊技を続ける問題あるユーザーの動向に明らかに影響を及ぼしているようである。RSN電話相談では、改正法施行後、家族・友人からの相談が大きく減少している(施行前毎月30件前後→現在毎月10件台)。パチンコへの過度ののめり込みは、本人も家族も金銭問題が生じなければ問題意識を持ちにくいという特徴がある。特に家族は、借金など金銭問題が表面化しなければ問題に気づかず、相談に繋がることも少ない。このため家族の相談が減少したと思われる。

それでは、法改正が依存問題を抑止できているのだろうか？ 答えは単純ではない。家族の相談は減少したものの、本人からの相談は減少していない。お金が借入できなくても、低貸玉や少しでも射幸性の高い機種への乗り換えなどで“我慢”している問題あるユーザーが依然多く存在しているようである。

新たな問題ユーザーの発生と債務問題による依存問題の重篤化抑止には有効性を感じさせるものではあるが、法改正が依存問題を抑止できる領域には限界がある。“ソフト闇金”と呼ばれる違法金貸しも登場してきており、問題ギャンブリングとお金の問題は、目立たなくなっても、それは新たな問題の形に変化するまでの一時休止と考えておいた方が良いのではないだろうか。

低貸玉営業

低貸玉にも問題ユーザーは多い

パチンコの遊技料金は、風営法により1玉4円以下、メダル1枚20円以下と定められているが、2006年頃から1玉1円以下、1メダル5円以下の低貸玉営業が登場してきた。現在では全国のホールの8割が低貸玉を実施し、台数割合も3割を占めるまでとなっている。

低貸玉営業は、高くなりすぎた射幸性とそれに伴う遊技費用の増大(ユーザーの疲弊)、景気の減速によって生じた客離れへの対策として広がった営業形態である。低貸玉営業の広がりにより、1,450万人(H19)まで減少していた参加人口は、1,700万人以上(H23)に回復している。その一方

で、年間10万円を超えていた遊技の年間平均は、平成20年以降7万円代に減少している(レジャー白書2011)。また、遊技参加人口は、増加しているものの、パチンコ産業の市場規模は20兆円を割り込み、縮小を続けている。

低貸玉営業の広がりによって、RSNの相談においても変化が見え始めた。低貸玉ユーザーからの相談が増加し(H22年度58件、H23年4～12月65件)、遊技金額が毎月20万円以上のユーザーからの相談が減少している(H22年度99件、H23年4～12月32件)。また、1回の遊技時間が8時間以上のユーザーも減少傾向にある。高額で長時間遊技するユーザーからの相談の減少という形で、相談電話では影響が認められている。

遊技金額の抑止と遊技参加者の回復に効果を見せている低貸玉営業ではあるが、依存問題の抑止効果の面からは検討しなければならない課題も多い。遊技金額が抑止されたとは言っても、参加者数が増えれば、必ず一定の割合で問題あるユーザーは発生する。また、貸金業法改正などで金銭的に苦しいユーザーが低貸玉に一時的に移行しているようである。電話相談においても、低貸玉や少額/短時間タイプのユーザーであっても問題ギャンブリング簡易評価版(SOGS)の点数は減少していない。

一旦のめり込んだユーザーは、営業形態が変化しても問題レベルからの脱却は難しいようである。のめり込みにくい営業形態の広がりには好ましいことであるが、のめり込んでしまったユーザーへの対策はさらに検討を重ねていく必要がある。

闇スロット等の違法営業

隠れた問題ユーザーへの取り組みを

射幸性の抑制と低貸玉営業が広がる中で「ヘビーユーザー」はどこに行ったのか疑問に思っていた。多くのヘビーユーザーは低貸玉への移行、止める、足が遠のくなどの変化で今日に至っていると思われるが、一部の人たちは“闇スロット”に手を出しているようである。

闇スロットは、従来の闇賭博場と異なり、射幸性の規制で撤去された過去のパチスロ機を用いて、低額で遊べるような形態を取っていることが多い。とはいえ、メダルでなく直接100円玉を投入できるように改造したり、24時間の営業を行うなど違法性は高く、営業者も参加者も刑法処罰の適応となる犯罪行為である。平成23年には、違法パチスロ店(ゲーム機賭博店)の摘発が全国で18件報道されている。過去の遊技機を使用しているため、客は違法と分かっていながらも賭博をしている感覚は薄いようである。

闇スロットに参加していること自体が問題であるが、正規営業で既に問題化しているユーザーが、違法賭博に移行

すれば生活破綻の危険は極めて高くなると容易に推測できる。しかし、残念ながら違法賭博場にはRSNの情報は届き辛く、介入も難しい。闇スロットの情報は耳にし、危惧しているが、相談につながる方はほとんどいない。これらのかなり問題化したユーザーへの支援をどのように行っていくのか、情報の伝達方法も含めRSNの取り組むべき課題である。

東日本大震災の影響 長期的視点で動向を観察

東日本大震災は、想定すらしてない出来事であった。この未曾有の事態が、パチンコののめり込み問題にどのような影響を与えるのかについては、現在も注意深く見守っている段階である。震災直後の想定としては、パチンコホールの被災や自粛ムードによって遊技参加者が減少し、相談件数は減少すると予測した。また、震災に続く原発事故による電力供給不足やパチンコパッシングが、その動きを強めるのではないかと考えた。

震災は、東北地域を中心に8県726件のパチンコホールに被害を与え、52店舗を全壊被害させている(全日遊連調べ)。また、東京電力管内においては、パチンコホールは電力供給不足に対応するためホールでは月3回以上の輪番休業、外壁照明やネオン、看板の消灯、ホール内の照明を50%カットするなどの対応が行われた。これらの状況下で、遊技参加人口は一時的には減少したものの、夏場以降は回復傾向にある。

震災の影響だけとは言えないが、RSNの電話相談件数は、平成23年12月末時点で、昨年度同期より158件少なくなっている。エリア別では、東北6県からの相談が震災以降一時的に激減した。ホールの再開・再建が進んでいるためか10月以降は東北エリアからの相談が増加に転じている。

震災エリアにおけるパチンコホールの盛況ぶりがメディアなどでも伝えられている。また震災地域にとどまらず、避

難・移住によるストレスやPTSDなど震災後、時間を経て表面化する問題もあり、現在のところ相談電話からは問題の変化は明らかにはなっていないものの、今後も長期的に動向を見ていかねばならないと考えている。

マスメディアとギャンブル問題 カジノ議論が火付け役に

マスメディアのギャンブル問題への関心は、周期的に高まったり弱まったりを繰り返している。5～6年前までは、巨大な収益産業としてのパチンコ業界への関心(主に非難)と多重債務問題との関連から取り上げられることがほとんどであった。しばらくは関心が向けられなくなっていたが、最近は大阪市長選の結果や震災復興に関連したカジノ議論をきっかけに、再びギャンブル問題に目が向けられてきている。以前の議論とやや論調が変わり、のめり込みへの対策の未整備が問題として指摘されることが多くなっている。カジノ議論とは直接関係してはいないが、RSNは日本で唯一のギャンブル問題の相談機関としてマスメディアから問合せや取材の依頼が増加している。メディアでの取り上げは、一時的に相談件数が増加しても持続はしないものの、社会的な問題啓発としては大きな意義がある。

メディアでの報道後に「遊技業界から支援を受ける相談機関とはけしからん！」という怒りの相談電話を頂くこともある。諸外国のギャンブル対策の多くは、カジノをはじめ遊技産業の社会的責任の一環として抛出される資金を元に、地域に提供されている。公営ギャンブルですら依存対策がなされていない現状で、民間主導でようやく立ち上げた私たちのプロジェクトを長い目で見守っていただきたいと願っている。RSNの活動は今後、社会の中でより重要な社会資源とみなされるかもしれない。マスメディアに対し、受け身の取材だけでなく、RSNから情報や意見を発信する機会を増やしていく時期が来ているようである。

オピニオン+α

回復支援施設ワンダーポートの支援を！ 出口としての社会資源への支援が不可欠

RSNの電話相談は、回復支援の入口として日々サービスを提供しています。回復支援の入口が有益な社会資源となるためには、入口から先の社会資源が整備されていなければなりません。特に、一旦のめり込んで生活が行き詰った人たちが再び社会に戻り、生活を再建する支援を得られる“質の良い出口”が不可欠です。ギャンブル問題の回復支援において、この出口機能を担っているのは、ワンダーポートのような民間の回復支援施設です。ワンダーポートは、ギャンブル問題が生じる背景に着目し、ギャンブル問題を「ギャンブル依存症」と一括りにせず、個々に必要な回復支援をコーディネートして、サービスを提供しています。RSNは、相談者をワンダーポートに紹介するだけでなく、ギャンブル問題の回復支援のあり方について様々な知識や知見を提供していただいています。

民間施設が丁寧な個別支援を行うことは、財政的な逼迫を生じさせるため、なかなかの施設も手を出せないのが現状です。それでも敢えて挑戦を続けるワンダーポートの活動は、当然ながら苦しいものとなっています。諸外国でのように、国やギャンブル関連産業が、社会責任かつ地域の新しい社会サポートの創造の一環として、資金援助を提供している現状と比べると、あまりにも支援が乏しいことに目を覆うばかりです。お金の問題として表面化しやすい問題だけに、安く(海外では無料サービスもたくさん存在している)質の良い回復支援サービスが提供できる体制を何とか作っていかねばなりません。

私たちもまだまだ多くの支援を必要としています。入口と出口が両輪のように機能して初めて、回復支援は社会資源として成長します。ワンダーポートの活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。なお、ワンダーポートは、認定NPO法人であり、寄付金は税金の控除対象となります。

今月のトピック&インフォメーション

西村代表講演(予定)

2/8三重ダルク・三重県主催「依存症って何？」
3/9 DARS in 沖縄「薬物依存の回復支援(仮)」

マスメディアによる RSN 活動紹介

| | | |
|-------------|----------------|-------|
| 2011年12月20日 | レジャー情報 | 1月号 |
| 2011年12月25日 | 遊技通信 | 1月号 |
| 2011年12月26日 | 週刊アミューズメントジャパン | 第309号 |
| 2012年 1月 1日 | 週刊アミューズメントジャパン | 第310号 |
| 2012年 1月 1日 | 南日本新聞 | 1月1日付 |

情報掲示板

家族教室 / 相談

(沖縄県)

オフィスサーブ 依存問題家族教室
 日時 毎月第2・第4火曜日 14:00 ~ 16:00
 主催 オフィスサーブ ※詳細要問合せ
 TEL 098-988-1168

(宮崎県)

ギャンブル依存症者の家族のつどい
 日時 毎月第1木曜日 13:30 ~ 13:30
 問合わせ先 宮崎県精神保健福祉センター
 TEL 0985-27-5663

(佐賀県)

ギャンブル依存症・家族教室
 日時 毎月第4火曜日 14:00 ~ 16:00
 主催 佐賀県精神保健福祉センター
 TEL 0952-73-5060

(山口県)

ギャンブル依存症の家族相談
 まずは電話相談をご利用下さい
 主催 山口県精神保健福祉センター
 TEL 0835-27-3388

(鳥取県)

ギャンブル依存症「家族教室」
 日時 2012年2月16日(金) 15:00 ~ 16:30
 主催 鳥取県立精神保健福祉センター
 TEL 0857-21-3031

(愛媛県)

依存症に関する相談
 日時 月~金 8:30 ~ 17:15
 問合わせ先 愛媛県心と体の健康センター
 TEL 089-911-3880

(三重県)

依存症問題家族教室
 日時 2012年2月24日(金) 14:00 ~ 16:00
 主催 三重県こころの健康センター
 TEL 059-223-5243

(滋賀県)

家族交流会
 日時 2012年2月6日(月) 13:30 ~ 16:00
 主催 滋賀県立精神保健福祉センター
 TEL 077-567-5010

(神奈川県)

23年度家族セミナー
 「ギャンブル依存の新しい考え方」
 日時 2012年2月5日(日) 13:00 ~ 15:30
 場所 神奈川県司法書士会館
 主催 認定NPO法人 ワンダーポート
 TEL 045-303-2621 (ワンダーポート)

(神奈川県)

依存症電話相談
 日時 毎週月曜日(祝日除く) 13:30 ~ 16:30
 問合わせ先 神奈川県精神保健福祉センター
 TEL 045-821-6937

(東京都)

薬物・アルコール・ギャンブル等でお困りの方に
 日時 毎月第2週から第4週の木曜日
 13:00 ~ 15:00
 主催 東京都立多摩総合精神保健福祉センター
 TEL 042-371-5560

(東京都)

ギャンブル家族教室
 日時 毎月第3金曜日 14:00 ~ 16:00
 主催 雷門メンタルクリニック
 TEL 03-5828-3841

(北海道)

ギャンブル研究会
 日時 毎月第2・4火曜日 18:30 ~ 20:00
 主催 北海道立精神保健福祉センター
 TEL 011-864-7000

セミナー等

(沖縄県)

ギャンブルの問題の支援に携わる人たちの勉強会 in 沖縄
 日時 2012年2月18日(土) 10:00 ~ 12:00
 場所 NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク
 ゲストルーム(定員10名)
 参加費 500円 事前申し込み必要
 問合わせ先 NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク
 TEL 098-871-9671
 (ギャンブルに問題を持つ本人と家族は参加できません)

(神奈川県)

ギャンブルの問題の支援に携わる人たちの勉強会
 日時 2012年2月5日(日) 16:00 ~ 17:30
 場所 神奈川県司法書士会館
 問合わせ先 浦和まはろ相談室
 TEL 048-796-7630
 (ギャンブルに問題を持つ本人と家族は参加できません)

(東京都)

NPO法人アパリ 13周年記念フォーラム
 日時 2012年2月22日(水) 13:00 ~ 17:00
 参加費 無料
 場所 聖イグナチオ教会 ヨセフホール(東京)
 主催 NPO法人アパリ
 問合わせ先 03-5830-1790(アパリ)

(福井県)

依存症を考えるセミナー
 日時 2012年2月27日(月) 10:00 ~ 12:00
 場所 ホッとサポートふくい 多目的研修室
 主催 福井県精神保健福祉センター
 問合わせ先 0776-26-7100

RSNの東日本大震災の関連支援

①精神保健援助者向けの支援 被災され、家または職場、採用予定の職を失った精神保健援助職の方々に、RSNの施設(3DK)を緊急避難の滞在先として提供中。宿泊者の中で相談研修プログラムを受ける方には、少額ですが臨時スタッフとして給与を支給いたします。

②遊技業界関係者向けのメール相談 被災された遊技事業関係者およびそのご家族と、被災者支援、地域支援に関わっておられる遊技事業関係者へ、E-mailによる精神的ケアにかかわる情報・実施方法などについて助言および情報提供。相談専用E-mailアドレス help@rsn-sakura.jp

さくら通信 第57号 月刊

2012年1月25日発行
 発行 特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク
 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原 103 ルボワ YARA2F
 電話 & FAX 098-871-9671(事務専用回線)
 相談専用回線 050-3541-6420
 お問い合わせや確認のお電話は事務専用回線をお使い下さい。
 Email: recovery-support-net@theia.ocn.ne.jp
 http://rsn-sakura.jp